

縦断シリーズ⑥ 溪谷と桜の園

武田尾から生瀬

第 197 回 武庫川エコハイク

2023. 11. 18 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²・丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の7市1町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える2級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川溪谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川溪谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して2年半にわたり協議した結果、平成22(2010)年10月、20年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

武庫川溪谷 神戸市北区道場地区から西宮市生瀬地区までの全長 14km の武庫川溪谷のうち、特に武田尾から生瀬までの7kmを**武田尾溪谷**と呼び、武庫川に沿って旧国鉄福知山線廃線跡があり、四季折々の景観の美しさ、生物の多様性から都心に近いハイキングコースとして市民に親しまれている。ほかの河川と異なり、成り立ちの経緯から上流にあるはずの溪谷が下流沖積平野の直上にある。

武庫川溪谷の貴重な自然 **地形** 約100万年前に起こった六甲変動と同時期にこの地域も隆起し、これに対抗して武庫川が穿刻し、流路がそのまま残る特異な先行河川が形成された。(兵庫県レッドデータブック2011地形Bランク)、**地質** 凝灰岩等を主体とする流紋岩類からなり、有馬層群と呼ばれる。これは1億年ほど前の白亜紀に火山噴出物が堆積したと考えられている。(同2011地質Cランク)、**自然景観** V字谷の景観資源的価値と植生の自然価値の両面から評価されて同データブック2011自然景観Bランクに位置づけられる。、**植物群落** 洪水が繰り返し発生する環境で岩上植物群が生息している。(サツキ、アオヤギバナなど同2010植物群落Aランク)

武庫川の石ころ(伝承) 住吉の大神をめぐり猪名川の女神と武庫川の女神が恋の鞘当てをし、猪名川の女神が身のまわりの石ころを武庫川の女神に投げつけ武庫川に生えていた芹菜を一本残らず引き抜いてしまったという伝承がある。(8世紀の住吉大社神代記)

武田尾温泉 1641年に名塩の獵師武田尾直蔵が発見したと伝えられる。18世紀中頃には武田尾温泉が金龍湯と呼ばれていたという文献がある。硫化水素をわずか含有する単純泉。平成28年武庫川護岸改修工事に伴い西宮側(右岸)のマルキ旅館は立退き移転。現在は宝塚市側(左岸)紅葉館、西宮市側(右岸)湯本旅館の2軒の営業である。

武田尾橋 吊橋、平成16年23号台風で流失、平成18年に改築された。

JR武田尾駅 80%がトンネルの中にある無人駅。西宮名塩駅との間はトンネルで結ばれた。

旧福知山線廃線跡 旧福知山線は明治32(1889)年阪鶴鉄道として建設、明治39(1906)年国鉄になり、昭和61(1986)年廃線となった。平成11(1999)年桜の園開園と同時に宝塚市側がハイキング道として開放された。西宮市側は平成28(2016)年11月JRが安全対策工事を行ったので利用者の自己責任のもとハイキングコースとして開放された。

水管橋 神戸市水道局千苧水源池から西宮の上ヶ原浄水場への送水管、大正8(1919)年完成、橋脚は近代土木遺産の一つ。

温泉橋 旧武田尾駅の改札口前の位置にあり、周辺に茶店があった。この辺りの家屋23戸は平成16年10月の23号台風で床上浸水の被害を受けた。この地区は全戸移転して、嵩上げし洪水対策

工事が平成29(2017)年完了し区画整理され駐車場と宅地に使用。玉瀬財産区の土地。

僧川 「ぼうさんがわ」ともいう。古宝山を源流とし上流に宝塚市の上水を取水。支流に坊川がある。

新田川(滝川) 大峰山北麓を源流とし、宝塚市が上水を取水している。

桜の園「亦楽山荘(えきらくさんそう)」 面積約40ヘクタール、笹部新太郎氏(1887~1978)の桜の演習林で、最盛時には山桜、里桜が30種5千本が植えられていたという。現在は宝塚市の里山公園。「亦楽山荘」は建物を指すのではなく、演習林全体をさす。現在里山ボランティアグループ「櫻守の会」が保全活動を行っている。(現在園内一部通行止あり)

長尾山第1トンネル 全長307m。平成16年の台風23号の洪水で道床が流されている。

武庫川第2橋梁 全長60m。ここまでは宝塚市、橋を渡ると西宮市。

天狗岩 武庫川第2橋梁から左岸下流の断崖上部に見えるのが天狗岩で、その昔、武庫川の生業を見極めるために天狗が座し、川の繁栄を祈ったという(伝承)。近くにあった仙人岩は川に崩落す。

溝滝 溪谷最大の滝、雄滝、雌滝がある。両岸から岩石が迫り狭くなった所を流れるので溝滝という。かつては鮎などが昇り、播州の鬪龍灘と並ぶ名風物であったといわれ、**駅弁の淡路屋**は生瀬駅で生まれ鮎寿司を販売していた。

重次郎ヶ淵(鯉ヶ淵) 1761年**名塩の教行寺建造**のための木材を武庫川を流して運んでいたが、1本の太木が淵に沈んだのを村民の重次郎が引き上げるために飛び込み、木は浮かび上がったが重次郎は帰らぬ人となった。村人たちは重次郎の名を後世に残すため淵の名とした。(伝承)

第2北山トンネル 全長413m、コースで最長のトンネルで中がS字にカーブする。

十国の瀬、十国の滝 第2北山トンネルの入口から上流が十国の瀬で溪谷最大の瀬である。対岸上部に雨天の後にだけ流れる十国の滝(**空水の滝**)がある。

武庫川ダム計画 裏面参照。1979年ごろから下流の治水等のためダムの計画が浮上した(兵庫県)。溪谷の貴重な自然の保全のため市民の反対運動が起こる。

人面岩場 ダム計画地の対岸の岩場は見方によって人や動物の顔に見えることから人面岩場と呼ばれる。

高座岩 有馬郡誌には上面7・8間、高さ4・5間のほぼ方形をなれる大岩石とある。溪谷中最大の岩石。かんばつになると名塩や近郷の百姓たちの雨乞いの場になっていたという。岩の下が龍宮につづいて乙姫様の遊び場。岩面を汚されると、それを嫌って乙姫様が雨を降らせると信じられていた。

どん尻川 武庫川の支流読売ゴルフ場に源流を持ち、途中で西宮市上水道水源池のどん尻ダムがある。

名塩川 国見山付近に源流があり、名塩の集落を通り、途中尼子谷川が合流し武庫川に注ぐ。

旧リバーサイド住宅地 平成16(2004)年10月23号台風の洪水で床上浸水83戸の被害を受け、全戸移転した。

漆ヶ淵 木之元地蔵の下中国道下辺り、昔から水死者が多く淵のほとりにあった漆の木のたたりという。

木之元地蔵 日本三体地蔵の一つ、赤子を火事から守ったことから火伏地蔵という。

米ヶ淵 奥から米を運んできた百姓がここで一文線を投げ入れ相場を占ったという、太多田川合流する所。

太多田川(おただがわ) 六甲山系に発し、蓬莱峠を通り生瀬の西側で武庫川に合流。

生瀬宿 有馬街道、篠山街道の追分の宿場町として栄えた、今も妻入建築が残る浄橋寺の門前町。

JR生瀬駅 明治32年阪鶴鉄道開通とともに**有馬口駅**が設置され、有馬温泉への玄関口となる。。